



## 神奈川の水道問題と民営化

日時 5月21日(火) 14時～16時(開場13時30分)

場所 大船学習センター第2集会室(定員36人)

講師 町井弘明さん

(かわさきの安全でおいしい水道水を守る会・代表)

飯岡ひろしさん(都市と水の研究所)

【資料代(実費)】200円 【申込・問合せ】神奈川ネットワーク運動・鎌倉 0467-42-8636

- ◆ 県営水道は神奈川県内12市6町の県民の32%にあたる約280万人に水道水を供給しています。節水が進み、1995年をピークに水道使用量が減少しており、人口減少社会にあって使用量が増えることは今後も考えにくい状況です。
- ◆ 一方、水道管の老朽化は進み、神奈川県は基幹管路の耐震化は全国トップ69%でありながら、その他の水道管の耐震管への敷設替えは年0.6%しか進まず、未だ20.3%と課題は山積しています。
- ◆ 昨年、水道運営事業の民営化導入を可能とする水道法が改正されました。水道使用量の減少や施設更新、老朽管対策などの課題があるなかで民間の力を導入し解決を図るためだと言われています。
- ◆ しかし水道事業は、水源や湖の環境保全やダムの耐震化などとも連動する事業であり事業の一部民営化だけで改善できるものではありません。何より水は命に直結し、安全安心な水の供給は公共でしっかり担うことが必要です。
- ◆ 県議選では、将来を見据えた水道事業の維持を訴え、コンセッション方式による水道民営化の問題点を指摘しました。今後とも注視していきます。
- ◆ 学習会では、神奈川の水事情と民営化問題に詳しいお二人からお話を伺います。町井さんは元高校教員で、地下水を水源とする生田浄水場廃止計画を阻止する運動を担い、東日本大震災で酒匂川からの導水管が破断して川崎市への給水が20日間停止したことから水道インフラのあり方に鋭い問題提起をされている方です！



宮ヶ瀬ダム

